

上越ぶらり旅

お盆に募参りで「ふるさと上越」へ行きました。ちょうど「はす祭」と「謙信公祭」の時でした。

謙信公祭は何年ぶりかなので思い立って春日山神社へ行つたのですが、祭りの神事や武者行列には早すぎたので神社の右手の小道から頂上へ行くことにしまし



た。神社の裏手に回ると、そこは別世界のように静かで、今にも謙信公が毘沙門堂を出て降りてくる足音が聞こえるようです。しばらく謙信公の気分にはひたつたりしました。

そうしているうちに、祭りをよそに林泉寺へ寄って、五智の国分寺まで歩きたくなつてしまひ歩きま

した。神社前の石段は確か百三十六段で昔のまま、林泉寺の総門は修復され本堂も立派になつて杉の林の中に佇んでいました。

加賀街道は松並木の松は数えるほどしか残つておらず真夏に歩

くのは酷でしたが、その分、新しく100%そば粉の蕎麦屋さんを見つけ此処は中々なものでした。他に、能生名立で獲れた活きのいい魚を食べさせる寿司屋さんもありました。

五智の国分寺に着いて目に飛び込んできたのは茶店の「ところてん」、午後の暑い最中で旨いことつたらなかつたです。すぐ前に芭蕉の句碑があつて味わいも一層です。

薬欄にいずれの花をくさ枕



このあと、直江津海岸へ出たときには陽が落ちて、波打ち際で釣りをしている人がシルエットになり海は映えていました。



今回は急に思い立つてのことでしたが、ぶらりと春日山神社から加賀街道を通過して五智国分寺まで行き、そして直江津海岸では日本海に沈む夕日を堪能することができ、実に、ふるさとを感じた一日でした。でも、居多神社へも寄れば良かったと思つたり、そう言えは、しばらく高田公園のお堀を一周してないし、金谷山や愛の風はどうなっているかも気になりました。夜の仲町ばかりに足を運ばないで、次の機会は何処へ足を向けようか

と想いをめぐらせた一日でもありました。皆さんいかがでしょうか。上越へ行かれたら、一日とはいわなくとも半日でも時間を作って、思い出のある懐かしい場所を訪れたら、きっと、その変わり様も含めて満足されることでしょう。

上越市は来年一月一日に十三町村が加わって広域上越市になります。“広報じょうえつ”見どころ紹介によれば、小学生の頃、臨海教室で行った有間川や名立も懐かしいですし、遠足で行った上杉(現・三和村)の風巻神社とか柳池(現・清里村)の坊ヶ池も上越市です。そして、それら懐かしい所ばかりでなく、名立には交通拠点施設「うみてらす名立」できて、三和村には地酒の試飲できる「米と酒の謎蔵」があり、頸城村に「坂口記念館」、板倉町では「光ヶ丘高原」が整備されるなど、各地に新しい施設があり一度は訪れて見たくなります。

上越へ行く途中も見逃せません。「ほくほく線」なら東洋の子ドルといわれる大島村や安塚町は茅葺屋根の民家が多く残って山里の風情と棚田の自然を満喫できます。車を使つてなら小諸の懐古園に寄るとか、上越市と姉妹都市の上田で真田城を見て長野の善光寺にお参りをして、小布施町では「北斎」を見て野尻湖を回っ

て上越へ入るのなど観光メニューは盛り沢山です。

新しい上越の発見と、寄り道する上越へのぶらり旅は、故郷を持つ幸せを感じさせてくれることでしょう。

辰

